夏の岳谷より雲の立ち昇り　高柳　暁
昼寝覚水槽の水減つてゐし　林　由貴子
採れたての茄子包丁をはね返し　沖本　サチ子
長崎忌海照り返し衰へず　森　清乃
城跡は永遠にあり秋の雲　佐藤　千珠
首太き親鸞聖人稲の花　今瀬　一博
桟橋の煙り驟雨は沖より来　島津　教恵
夕風や枝豆青く茹であがり　小林　悦子
夜空よりスローモーション花火降り　新井　はつ子
花茗荷採る手も膝も地につけて　神谷　孝子
振り向けとばかりに庭の百合開く　梶村　美佐子
飄々と風過ぎ刈田乾きけり　岡崎　桂子
モネの絵の中より出でて休暇果つ　安田　青葉
益子焼秋刀魚の口の鋭かり　小口　隆光
巨船めく美術館なり鰯雲　佐藤　正子

秋めくや水流れゆく草の中　小山　和江
紫ははの色なり式部の実　加倉井　悦子
グラジオラス真つ直ぐに枯れ残りけり　樫村　宏子
紫蘇の実の香る大原しづまれり　平木　郁子
整然と椅子あまたあり広島忌　槙原　シゲ子
点々と干草ロール宗谷線　松田　章子
ふるさとの崩れ始めて花氷　中原　修子
西日さす校舎校庭誰もゐず　百瀬　初江
蔵町に旅人ふえてさるすべり　大石　紀代子
福島の海へ伸び行き鰯雲　井上　千代
秋の田を風重さうに渡りをり　岡本　優子
豊の秋礎石は月日重ねゐて　松本　淳子
ゆふだちや緋鯉の柄の散り乱れ　増山　きみ
さはさはと父が掃きをり盆の道　福井　隆子
後ろから来て烟りたつ驟雨なり　中野　弘子